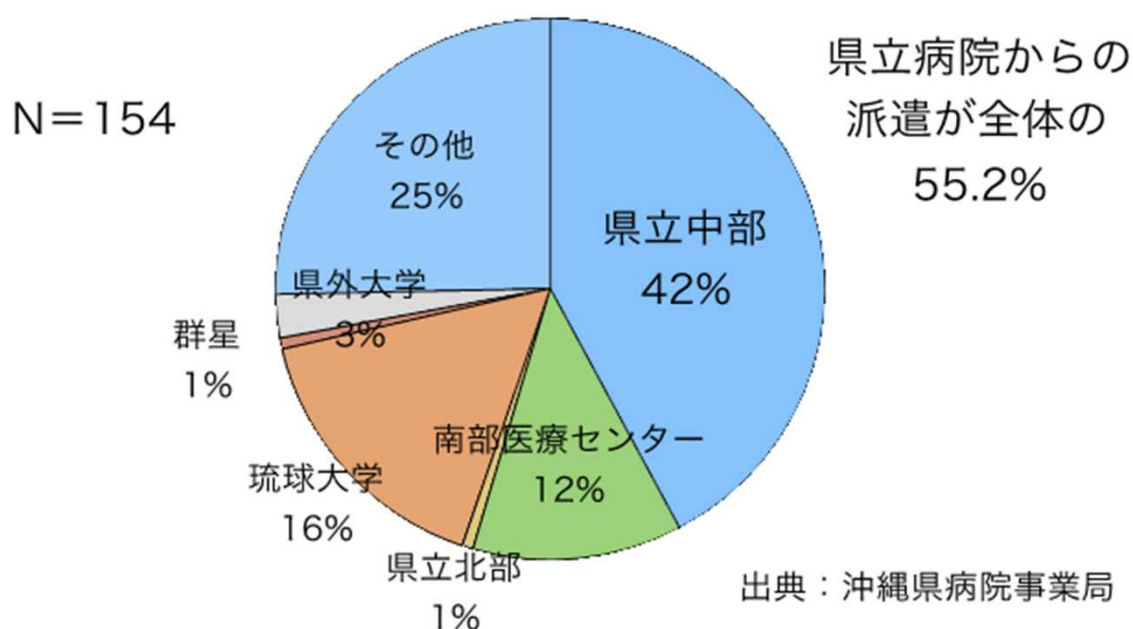


中部圏域の離島・僻地医療

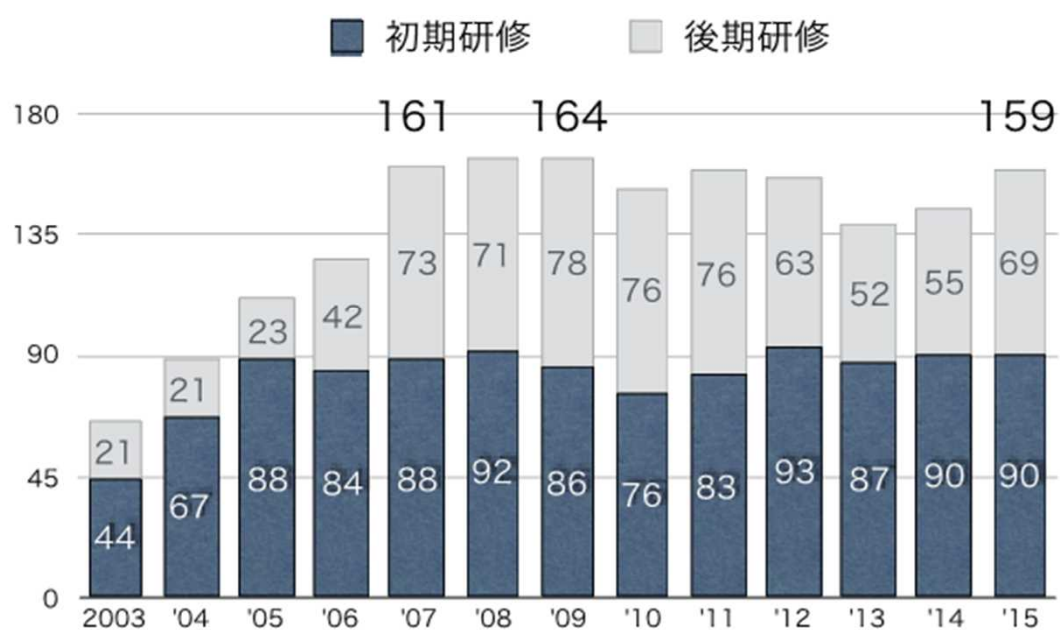
1. 県立中部病院が圏域内離島診療所を支援
2. 中部圏域外の人材育成・派遣
 - A. 北部・宮古・八重山圏域の病院、診療所へ
 - B. 県立中部病院の臨床研修、応援・派遣
 - C. 徳洲会病院間の応援
3. 離島医療に貢献する人材の効率的育成
 - A. 一定以上の症例数が必要 → 一定規模の医療機関（病床）、救急の研修が必要
 - B. 指導力のある指導医が必要

離島僻地病院・診療所への医師派遣

派遣元別医師構成（1年以上在籍する者）2014年度



県立病院研修医数の変遷



出典：沖縄県病院事業局

慢性期医療

慢性期の病院の現状

1. 慢性期の病棟は常時92%超えて稼働
2. 医療区分2、3以上の医療依存度の高い患者を受け入れている→在宅移行が困難
3. 疾患が多岐にわたるケースは包括医療としての慢性期病棟での対応は経営上困難
4. 対応困難ケースの例；認知症＋内科疾患、自殺企図、末期がん、寝たきりの小児等
5. 現在の報酬では介護職員の待遇改善が困難で職員確保が難しい

慢性期の病院からの意見

1. 慢性期病棟の減床は適切ではない
2. 急性期病棟と慢性期病棟は車の両輪
3. 急性期を経て助かった医療区分2、3の患者の居場所として慢性期病棟の増が必要
4. 急性期病棟での転院先待ち患者は慢性期の病床を増やすことでも補えるのではないか
5. 病床機能選択の自由度を高め、その見直しも可能とし、その際の助成を継続してほしい

沖縄病院の神経内科病棟

1. 県内唯一の難病医療拠点病院
 - A. 初診患者医療圏ごと内訳（'15年7-9月）
 - ・ 南部21 >> 中部3 > 北部1、宮古1
2. 平均入院患者数；約112人 / 日
3. 約500退院、平均80日弱在院（'15年）
4. 初診から入院まで平均31日（'15年7-9月）
5. 病棟建て替えが2017年8月完成予定
 - A. 慢性期（神経難病）120→145床（+25）
 - B. 急性期（癌、緩和）150→125床（-25）

琉球病院の重心病棟増床計画

1. 重心＝重度心身障害者
 - A. 現在は一般病床80床で対応
 - B. 入院希望待機者7名（'15年11月時点）
 - C. 2017年10月に10床増の工事竣工予定
2. 増床計画の経緯
 - A. 2014年11月～ 沖縄県と調整スタート
 - B. '15年7月国立病院機構本部へ増床協議書提出、
12月に協議書を厚労省へ提出
 - C. '15年12月時点で厚労省で審議中
 - D. ○年□月 厚労省から県へ当該事務委託予定